

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：京町いづみ保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：高木 千晴	定員（利用人数）： 130名
所在地：〒210-0848 川崎市川崎区京町3-26-1	
TEL：044-322-3811	ホームページ： <a href="http://www.misasakai.or.jp/">http://www.misasakai.or.jp/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2009年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人三篠会	
職員数	常勤職員： 23名 非常勤職員 17名
専門職員	（専門職の名称） 名 管理栄養士 1名
	保育士 26名
	看護師 1名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）
	2階 乳児保育室3 一時保 育室1 多目的室1 屋上プール（組み立て式）

③ 理念・基本方針

<理念> 地域におけるもっとも身近な児童福祉施設として入所児童および地域の児童の最善の利益を考慮し、福祉の増進を図る。  
◎子どもの健やかな育ちを支援 ◎保護者の就労と育児の両立を支援 ◎地域の子育て家庭を支援

<方針> 安定した気持ちで園生活が過ごせるように、一人ひとりの子どもを充分受け止め、興味・関心にあった援助をする。一人ひとりの成長、発達をとらえ、子ども自身が考えたり、見通しを持った行動や、生活ができるよう「待つ」ことを心がける。同年齢の友達や大人など人との密接なつながりの中で自分を表現したり、相手を認めたり共感したり、時には感情のコントロールができる豊かな関係作りをする。保育園と家庭がそれぞれの役割を充分認識し、ともに力を合わせ、子どもの成長を助け、見守っていけるよう連携を取り合う。地域の保育園として園庭解放やおひさまニコニコ会、育児相談、育児講座、小田球場開放日への参加など、積極的に地域と連携を取り合う。限られた自然の中で、飼育動物や小動物に関心を持ったり、草花や野菜などの栽培により豊かな感性を育てる。野菜の栽培や、給食へのかかわりにより、食への関心を高め食育を行う。散歩を多く取り入れ、歩く力、人や自然と関わる力、集団行動のマナーなどを身につける。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・住宅地の中にあり、周りは高層マンションが多いが、公園、樹木に囲まれた広い園庭が特徴である。園庭、敷地内には柿、ざくろ、みかん、さくらんぼなどの果樹、夏野菜の栽培、さつま芋栽培、収穫を楽しんでいる。
- ・栄養士を中心とした食育、箸の指導（無理なく子どもたちのペースに合わせた箸の検定）は大豆10個つまめるようになって卒園していく。
- ・看護師を中心とした保険指導、生活週刊（自ら衣服の調節など）、友だちとの関わ

りで見えない心を見える形にした指導を行っている。

- ・子ども主体の遊び、それを支える保育になるよう、外部講師の協力を得て研修を開き質の向上に努めている。

- ・リズム感、表現力、体幹を意識した取り組みとして、ダンス教室の取り組みがある。

- ・体験と学びを実感できる保育に努め、保育目標である「心身ともに健康な子ども」の成長の支援に努めている。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年7月18日（契約日） ～ 2024年2月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	4回（令和2年度）

#### ⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

##### 食と環境、保育の一体化に力を入れて取り組んでいる

栄養士は、ただ食事を提供するだけでなく、子どもたち一人ひとりの状況や発達に応じた工夫を行い、食事の時間も保育の一環として捉えていることがうかがえる。食器の選択にも陶器を用いるなど細部にわたる配慮がなされている。日々の保育においては、調理担当者も含めた全職員が子どもたちの状態を密に把握し、それに基づいた食事提供や食育活動を展開している。食事の提供だけではなく、食に関わる全ての工程において子どもたちの健やかな成長を支援し、食べる楽しみや食材に対する理解を深める機会を提供している。

##### 透明性の高い運営を目指し、改善がすすめられている

新園長の就任後、これまで職員間で共有されていなかった情報や運営に関する事項がオープンにされ、改善に向けた取り組みが積極的に進められている。この変化は、透明性の高い運営を目指すものであり、職員全員が園の現状や課題を共有することで、保育の質の向上と、職員の働きやすい環境にもつながっていることがうかがえる。

##### 子ども主体の保育に全職員が積極的に取り組んでいる

保育所保育指針に沿って子どもたちの主体性を重視した保育に積極的に取り組んでいる。職員は定期的に研修に参加することで、この方針を深く理解できるように努めており、得た知識を保育に反映させることで、子どもたちの成長を支援している。保育の過程や成果についてはドキュメンテーションを通じても具体化されており、見直しや改善に反映できるようにしている。

今後期待される点

##### 園庭の環境についてやその使い方に関して課題としている

園庭は、広さや安全が確保されており日々の保育に活用されているが、子どもたちが自然と触れ合い、探究心を育む場としての機能を強化することが求められており、課題として捉えている。緑を増やし季節感を感じられる環境を作り出すことを目標として検討中であり、園庭が子どもたちの学びと成長の場へと変化することが期待される。

##### 保護者アンケート結果と今後の取り組みについて検討されたい

今回実施した保護者アンケートでは、全体的な満足度は大変高く、園での取り組みを評価する声が多く聞かれている。一方で、様々な点について改善を望む声も聞かれて

いる。保護者への連絡事項の伝達、安全対策などについては職員間で検討を行い、保護者の理解が得られるよう、今後の取り組みについて伝えることが望まれる。

#### **中長期計画の策定と実態に即した事業計画の運用が求められる**

法人の中長期計画は策定されているものの、園としての中長期計画は策定されていないため、検討が望まれる。現状では、単年度の事業計画において数値目標を設定し、毎月の定例会議での報告を通じて職員に情報を共有し、目標達成に向けた意識づけを行っている。今後は園の課題を明示し、実態に即した計画の策定と、それを職員や保護者と共有することにも期待したい。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

子どもが主体的に遊ぶことができる環境について今後も継続的に全職員で考えていき、それに付随して園庭環境についても引き続き取り組んでいきたい。  
また、職員に留まらず、保護者や地域と一丸となって子ども達の育ちを支えていく。さらに保護者の思いも受け止めつつ、理解が得られるようにしていく。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり